

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2021年8月10日
【四半期会計期間】	第24期第2四半期（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）
【会社名】	株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所
【英訳名】	D.Western Therapeutics Institute, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 日 高 有 一
【本店の所在の場所】	名古屋市中区錦一丁目18番11号
【電話番号】	052 - 218 - 8785
【事務連絡者氏名】	取締役総務管理部長 川 上 哲 也
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中区錦一丁目18番11号
【電話番号】	052 - 218 - 8785
【事務連絡者氏名】	取締役総務管理部長 川 上 哲 也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第23期 第2四半期連結 累計期間	第24期 第2四半期連結 累計期間	第23期
会計期間	自 2020年1月1日 至 2020年6月30日	自 2021年1月1日 至 2021年6月30日	自 2020年1月1日 至 2020年12月31日
売上高 (千円)	151,482	201,594	355,586
経常損失 () (千円)	111,210	82,178	289,527
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失 () (千円)	96,989	82,975	276,104
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	112,007	82,975	291,123
純資産額 (千円)	1,309,692	2,113,469	2,163,905
総資産額 (千円)	1,794,889	2,604,424	2,737,711
1株当たり四半期(当期) 純損失 () (円)	3.69	2.83	10.16
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	73.0	81.0	78.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	79,985	74,681	216,284
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	821	100,007	13,465
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	60,000	43,379	1,004,126
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,398,094	2,100,319	2,308,210

回次	第23期 第2四半期連結 会計期間	第24期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日
1株当たり四半期純損失 () (円)	2.03	1.42

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第24期第2四半期連結累計期間及び第23期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。第23期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社グループの事業は創薬事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしていません。

新型コロナウイルス感染拡大による当第2四半期連結累計期間における経営成績等への重要な影響はありません。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間において、当社グループは新薬の継続的な創出と開発パイプラインの拡充を目指し、研究開発活動を推進いたしました。

自社創製品については、「グラナテック®点眼液0.4%（以下、「グラナテック」）」の国内販売状況は順調に推移しております。ライセンスアウト先の興和株式会社では、同剤の海外展開を継続して検討しております。また、緑内障治療剤「H-1337」については、米国での自社開発の準備を進めております。

導入品については、「DW-1002」の欧州・米国等で上市済みの製品（製品名：ILM-Blue®、MembraneBlue-Dual®、TissueBlue™）は、ライセンスアウト先のDutch Ophthalmic Research Center International B.V.によって順調に販売されております。同剤のカナダについては、1月に承認取得しております。

また、株式会社メドレックスと共同開発している「DW-5LBT」については7月5日に審査完了報告通知を受領いたしました。現在、通知内容を精査し、FDA指摘事項に適切に回答すべく、対応を進めております。

その他ライセンスアウト済み開発パイプラインについては、ライセンスアウト先において開発が進められました。

研究開発プロジェクトについては、眼科関連疾患を中心に新薬候補化合物の探索のための研究開発活動及び他社との共同研究を推進いたしました。4月にSyntheticGestalt株式会社との間で炎症系、中枢系疾患を対象としてAIを用いた新規のキナーゼ阻害剤の創製を目的とした共同創薬を開始いたしました。また、2019年よりユビエンス株式会社（以下、「ユビエンス」）との間で標的タンパク質分解誘導薬の創出に向けた共同研究を行っておりますが、キナーゼの分解誘導作用を有する幾つかの化合物を取得できたことから、6月に共同研究契約を延長し、資本提携いたしました。

以上の結果、売上高については、各上市品のロイヤリティ収入及びGlaukos Corporation（以下、「Glaukos」）からの研究費受領等により、合計201百万円（前年同期比33.1%増）を計上し、売上原価に9百万円（前年同期比63.3%増）を計上しました。

販売費及び一般管理費については、283百万円（前年同期比15.0%増）となりました。その内訳は、研究開発費が152百万円（前年同期比22.8%増）、その他販売費及び一般管理費が人件費及び新株予約権の権利行使等により資本金等の額が増加したことに伴う事業税（外形標準課税）の増加等により、131百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

これらにより、営業損失は91百万円（前年同期営業損失100百万円）となりました。営業外収益に為替差益110百万円を計上したこと等の結果、経常損失は82百万円（前年同期経常損失111百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は82百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失96百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

総資産は、前連結会計年度末から133百万円減少し、2,604百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末から214百万円減少し、2,288百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が207百万円、流動資産のその他が7百万円減少したこと等によるものです。固定資産は、前連結会計年度末から81百万円増加し、315百万円となりました。主な要因は、契約関連無形資産が20百万円減少した一方で、ユビエンスへの出資により投資有価証券が100百万円増加したこと等によるものです。

負債は、前連結会計年度末から82百万円減少し、490百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末から22百万円減少し、186百万円となりました。主な要因は、未払金が11百万円、未払法人税等が8百万円減少したこと等によるものです。固定負債は、前連結会計年度末から60百万円減少し、304百万円となりました。主な要因は、長期借入金60百万円減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末から50百万円減少し、2,113百万円となりました。主な要因は、新株予約権の権利行使等により、資本金及び資本剰余金が各々16百万円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が82百万円減少したこと等によるものです。

この結果、自己資本比率は81.0%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ207百万円減少し、2,100百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は74百万円（前年同期は79百万円の支出）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失82百万円があったこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は100百万円（前年同期は0百万円の支出）となりました。これは主に投資有価証券の取得による支出100百万円があったこと等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は43百万円（前年同期は60百万円の支出）となりました。これは新株予約権の行使による株式の発行による収入16百万円があった一方で、長期借入金の返済による支出60百万円があったことによるものです。

（4）経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略について重要な変更はありません。

（5）会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

（6）優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

（7）研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は152百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動に重要な変更はありません。

（8）生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、「グラナテック」「DW-1002（欧州・米国）」のロイヤリティ収入及びGlaukosからの研究費受領等により、合計201百万円を計上しました。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等は行われておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,442,000
計	48,442,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	29,358,600	29,358,600	東京証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数は 100株であります。
計	29,358,600	29,358,600	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2021年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年5月13日(注)	53,300	29,358,600	7,915	573,159	7,915	2,672,501

(注) 譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行による増加であります。

発行価格 297円

資本組入額 148円50銭

割当先 当社取締役(社外取締役を除く)2名、当社子会社取締役(社外取締役を除く)4名

(5) 【大株主の状況】

2021年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
日高 弘義	愛知県名古屋市千種区	3,128,800	10.65
日高 有一	愛知県名古屋市千種区	2,804,200	9.55
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	888,814	3.02
楽天証券株式会社	東京都港区南青山二丁目6番21号	556,900	1.89
a uカブコム証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目3番2号	522,900	1.78
日高 邦江	愛知県名古屋市千種区	300,000	1.02
マネックス証券株式会社	東京都港区赤坂一丁目12番32号	278,368	0.94
五十畑 輝夫	栃木県栃木市	260,200	0.88
木村 重二郎	静岡県浜松市西区	175,200	0.59
渡辺 淳	静岡県浜松市北区	161,700	0.55
計	-	9,077,082	30.91

(注) 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 29,354,100	293,541	-
単元未満株式	普通株式 4,400	-	-
発行済株式総数	29,358,600	-	-
総株主の議決権	-	293,541	-

【自己株式等】

2021年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所	愛知県名古屋市中区 錦一丁目18番11号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

(注) 譲渡制限付株式報酬の権利失効により無償取得した株式であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年1月1日から2021年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,308,210	2,100,319
売掛金	91,877	92,958
貯蔵品	58,324	57,485
その他	44,872	37,748
流動資産合計	2,503,284	2,288,511
固定資産		
有形固定資産	5,292	4,194
無形固定資産		
契約関連無形資産	205,714	185,142
その他	2,540	2,621
無形固定資産合計	208,254	187,763
投資その他の資産	20,879	123,954
固定資産合計	234,426	315,913
資産合計	2,737,711	2,604,424
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	120,000	120,000
未払金	37,637	25,782
未払法人税等	18,771	10,306
その他	33,396	30,865
流動負債合計	209,805	186,954
固定負債		
長期借入金	340,000	280,000
その他	24,000	24,000
固定負債合計	364,000	304,000
負債合計	573,805	490,954
純資産の部		
株主資本		
資本金	556,856	573,159
資本剰余金	2,655,571	2,671,874
利益剰余金	1,051,280	1,134,256
株主資本合計	2,161,147	2,110,777
新株予約権	2,758	2,692
純資産合計	2,163,905	2,113,469
負債純資産合計	2,737,711	2,604,424

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
売上高	151,482	201,594
売上原価	5,595	9,137
売上総利益	145,887	192,457
販売費及び一般管理費		
研究開発費	1 123,809	1 152,066
その他	2 122,955	2 131,616
販売費及び一般管理費合計	246,764	283,682
営業損失()	100,877	91,225
営業外収益		
受取利息	90	9
為替差益	-	11,263
その他	483	323
営業外収益合計	573	11,595
営業外費用		
支払利息	2,457	2,366
為替差損	2,414	-
支払手数料	6,033	-
その他	-	181
営業外費用合計	10,906	2,548
経常損失()	111,210	82,178
税金等調整前四半期純損失()	111,210	82,178
法人税、住民税及び事業税	797	797
法人税等合計	797	797
四半期純損失()	112,007	82,975
非支配株主に帰属する四半期純損失()	15,018	-
親会社株主に帰属する四半期純損失()	96,989	82,975

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純損失()	112,007	82,975
四半期包括利益	112,007	82,975
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	96,989	82,975
非支配株主に係る四半期包括利益	15,018	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	111,210	82,178
減価償却費	21,609	22,333
株式報酬費用	2,475	6,591
受取利息	90	9
支払利息	2,457	2,366
為替差損益(は益)	1,883	10,177
株式交付費	-	88
売上債権の増減額(は増加)	38,334	1,080
たな卸資産の増減額(は増加)	292	838
未払金の増減額(は減少)	8,167	12,015
その他	23,184	2,348
小計	76,183	70,891
利息の受取額	91	9
利息の支払額	2,311	2,221
法人税等の支払額	1,582	1,576
営業活動によるキャッシュ・フロー	79,985	74,681
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	803	-
無形固定資産の取得による支出	421	585
投資有価証券の取得による支出	-	100,320
差入保証金の増減額(は増加)	404	897
投資活動によるキャッシュ・フロー	821	100,007
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	60,000	60,000
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	16,620
財務活動によるキャッシュ・フロー	60,000	43,379
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,883	10,177
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	142,690	207,890
現金及び現金同等物の期首残高	1,540,784	2,308,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,398,094	2,100,319

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した(新型コロナウイルス感染拡大の影響による会計上の見積りについて)に記載した新型コロナウイルス感染症の拡大による会計上の見積り及び仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 研究開発費の主要な費用及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
給与手当	48,085千円	52,892千円
外注費	10,119千円	30,524千円

2 その他の主要な費用及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
役員報酬	60,512千円	57,879千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
現金及び預金	1,398,094千円	2,100,319千円
現金及び現金同等物	1,398,094千円	2,100,319千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

当社は、創業事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

当社は、創業事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
1株当たり四半期純損失()	3円69銭	2円83銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	96,989	82,975
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	96,989	82,975
普通株式の期中平均株式数(株)	26,284,892	29,308,623
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。なお、前第2四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

子会社への増資

当社は2021年6月17日開催の取締役会において、当社の連結子会社である日本革新創薬株式会社(以下、「JIT」)に対する増資を行うことを決議し、2021年7月27日に払込を完了しております。

(1) 増資の目的

JITは、直近の経営成績及び財政状態の悪化により債務超過の状態に陥っているため、債務超過解消と財務体制改善を図るべく、当社の連結子会社であるJITに対する増資を行うことを決議いたしました。

(2) 増資の概要

増資金額 300,000千円
払込期日 2021年7月27日
資金調達方法 募集株式

(3) 連結子会社の概要

名称 日本革新創薬株式会社
所在地 名古屋市中区
事業内容 医薬品の研究開発および医薬品のコンサルティング

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年 8月10日

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
名古屋事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高 木 勇 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古 田 賢 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 花 輪 大 資 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所の2021年1月1日から2021年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2021年4月1日から2021年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年1月1日から2021年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所及び連結子会社の2021年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

強調事項

重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、会社は、2021年6月17日開催の取締役会において、会社の連結子会社である株式会社日本革新創薬株式会社に対する増資を行うことを決議し、2021年7月27日に払込が完了している。当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。